**日本レンゲの会在京事務局会議. 2018年5月20日㈰**

於：多摩市

日本レンゲの会では、協力会員の報告をきっかけに今年のレンゲ生育状況の異常について緊急報告をまとめることにしました。その結果については別途、号外という形で皆様にご連絡する予定です。

事務局会議終了後はそれ程の被害は無いとの連絡もありましたが、この連絡の方は、関係者によると長年に亘りレンゲの栽培をした経験から秋の種蒔後の排水管理をしておられるようで、従来の種をまいた後は手を掛けない播種方法からは、今年の悪い作況では特例のようです。

山の深い場所で木が植わってない土を田圃に埋め立てると土に栄養分がないため、レンゲは上手く成長しません。このような土地には様々な草をすき込み続けると土壌が肥えてレンゲが育つようになります。また、このような場所でレンゲを栽培する時は、私たちはレンゲ玉と言っていますが、他の場所でレンゲを栽培した土を泥団子にしてその中にレンゲの種を入れてこの栄養分の少ない大地を耕して置いておく方法もあります。これは一旦レンゲが咲いた田圃にはレンゲの根に寄生する根粒菌が土の中にあるからです。その土でレンゲのタネを包むと荒れた土地で、根粒菌のない所でもレンゲの開花が期待されるというわけです。

**【経過報告】**九州・中国・四国で長雨の影響大を確認している。

●**九州、中国、四国**の蜜源レンゲは、長雨、大雨の影響・発芽成長どきに寒さが続き、さらに年が明けて霜柱による霜枯れが多くみられました。かなり広い田圃に種を蒔いたのですが、田圃1枚しか残っていない場所しかないという深刻な状況でした。

●昨年初めてレンゲ祭りが試みられた***鹿児島県姶良市北山***では、昨春出来た種からの実生（みしょう）の発芽が開花しました。南日本新聞の記事では綺麗に開花した部分もあるようです。

●協力会員の報告によると、5月15日時点で4月に開花していなかった**愛媛県松山市、今治市**では時期遅れで開花中とのこと。実生からの発芽か、昨秋種蒔したのが早春に発芽したのか調査中です。

●**岡山県美作市湯郷温泉**近くの養蜂家からは、例年より色が良いレンゲが開花中で、開花期間が長いとの報告を受けています。

**●奈良県奈良市**では「昨年の10月に稲刈り後、すぐに播種いたしましたところ大型台風の連続で圃場が大冠水となり、発芽した芽が水没したので、急いで排水工事をしたが４割ほど枯れて、奇麗に咲いたのは1,500坪程度となった。」との報告を受けています。

**●大阪府高槻市三島江**では、かつて不耕起で実生からの発芽したレンゲが綺麗に咲いた田圃で数年前から稲作を再開したところ、昨秋には不耕起で種蒔した所で微かに生えている程度だったようです。また、実生からの発芽は少しずつ長期間に亘ることもあり、湿潤による被害を逃れることもある。しかし昨秋の長雨と豪雨は不耕起栽培には非常に厳しく、西洋・日本蜜蜂の蜂蜜は激減し、開花してもその後に続く蕾、開花、受粉過程でレンゲ蜜が極めて少なくなっています。今年の春になっても気温が低い日があり、4月21日から開花が増えたが、田起こし後に溝が出来て水が抜けた場所では帯状に綺麗な花を咲かせ受粉開始し、排水路の有無が生育に影響していることを確認しています。

**●JR京都駅と新大阪駅間、阪急京都線淡路駅と西京極駅間**からの報告では、再開発で、レンゲの種蒔をしなくなった駅前もあり、昨年までよりも確認出来た場所は極めて少ない。車窓から見えたレンゲは受粉して花の色が濃くなっていたが、茎、葉の数が例年よりも少ない。昨年秋の長雨、豪雨の被害を乗りきるために排水対策を施していました。

●**山陰線の車窓**からは**、**綾部市内、南丹市内、亀岡市内でレンゲ田を確認。中山間地の棚田でのレンゲと稲作には雨水が欠かせないのにも拘わらず、過湿を避けるために排水をしながらレンゲを咲かせて稲作をされる耕作者の叡智を感じます。

**●静岡県　富士山が見えるレンゲ田**では、新幹線のデッキから見事なレンゲ田が見え、現地ホームページで写真公開中です。特にこの場所は活動開始時に種蒔した地域です。

**●関東各地**は様々です。

１．東京都台東区のマンション8階では、コハコベにおおわれて1本が開花した位。白レンゲはかなり発芽したがコハコベに覆い尽くされて消えた。同じ建物の4階に8階からプランターに種蒔したのを運んだレンゲ、白レンゲは開花中です。

２．東京都港区赤坂のビル屋上では、無事開花しました。

３．茨城県内の森林に隣接する畑では、見事に開花しました。写真を見ると茎数が少ないが結実しています。

４．茨城県坂東市の田んぼに咲いたレンゲは見事です。現地ホームページで写真公開中です。毎年、栽培する田圃を変えています。

５．東京都内幼稚園からは、こんなお便りをいただきました。「今年の我が園のレンゲは、急に暖かくなったせいか、桜と同じく開花が早く、私共が春休みを終えて園に行きますと、満開を終え花が勢をなくしておりました。しかし、まだまだ私達を幸せにしてくれる力を持っておりました。４月11日の入園式の様子のお写真を添付させていただきました。今月末には種取りを予定しております。しかし、私は種取り三年目なのですが、例年に比べると種の付きがとても少ないです。」

６．多摩市宝野公園、遊歩道、大形プランターでの栽培は、過湿による被害が無かったが、田圃は二度追い蒔きしても発芽生育は少なく、アメリカフーロが多く繁茂しています。

**●宮城県名取市**では、行燈松前、名取川河川敷、小塚原松育苗場隣接で栽培しました。行燈松前の田圃にはまだ石も残っていてそれが生育を助けた可能性があります。一面に綺麗にレンゲの花や所々に菜の花が咲き、畦道にはカラスノエンドウ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、アメリカフーロもありました。アメリカフーロの葉は多賀城で初めて見た年に比べどこでも小さいようです。河川敷では川縁の方からかなりアルファルファタコゾウムシに花と柔らかい葉が食われ枯れたように見えましたが残った茎と葉は生きていました。例年ならば茎が空いているところに伸びて花も沢山付けていて、虫が食べきれないほどに広がっていましたが、特に名取市では地面が見えていました。アルファルファタコゾウムシは畦道沿いに移動して生息地を拡げているので河川敷も広がりやすいです。またアルファルファタコゾウムシは夏眠するので、レンゲ、カラスノエンドウ以外の豆類作物への影響は出ません。初めて蒔いたところの生育が良いようです。

**●松育苗場隣接地**では、長雨、大雨の影響を受け土の低い所に水が溜まり消えた後に様々な草が生えていました。

**●仙台市泉区**では、栽培したレンゲを4月21日仙台市地下鉄南北線泉中央駅前で公開しました。プランター栽培は開花し始めたばかりで、露地栽培のレンゲを移植したのはかなり開花中でした。好天気に恵まれ展示中に蕾が膨らむ様を確認しています。栽培中にナメクジが現れ一つ一つ取り除くのに苦労したようです。

**●宮城県多賀城市東田中のレンゲ**では、過湿や凍結で消えた部分に、カラスノエンドウ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、アメリカフーロ、コハコベが繁茂。日当たりがあまり良くない林から様々な養分を吸った雨水が流れてくる通路は、踏み石、コンクリートの犬走り、家屋からの反射熱、輻射熱で今年も開花。昨秋、物置を撤去した場所は、土台のコンクリートブロックの周囲で元気に背丈を伸ばしました。中心部で長年日陰だった場所に近隣で見かける野菜がでました。畠にする為に植木を切った場所の傾斜地に初めて蒔いたところ一面に繁茂。昨年まで開花数が多かった3か所は、僅かな開花だけで、日当たりが良くても水が滞留しやすい場所は全滅。北側の道路沿いで、朝日と夕日が当り、車からの排気ガス、近隣の生活排熱の影響を受ける所は、雪が解凍と凍結を繰り返して枯死した部分以外は、かなりの花を咲かせたが、先に成長したコハコベに埋もれている所が多いです。

**【報告を基にした対策】**各地の共通点で水捌けが一番大切なことを再確認しています。

１．昨秋の長雨で播種時期が遅れたためその後の豪雨による冠水、寒さの影響で茎の伸びが少ないまま越冬し、冬の霜柱による被害がありました。

２．播種直後の大雨で発芽初期に田んぼの長期間滞水の影響を受け、根粒菌が発芽後二週間位の間に、根の周りの空気中の窒素を利用して活性化できなかったようです。

３．田んぼでの栽培には、発芽後2週間、排水に留意し、葉が5枚以上になるまで、排水管理をする。排水と共に流れる土中の養分よりも、レンゲが咲いて増える養分が多くなることの検証が必要ということを再確認して会員及び関係先に報告します。

４．栽培で土壌が肥えて土中に虫が増え、それを捕食しに来た小鳥たちが落とす種が、発芽し増えるので2年目が一番厳しいと確認しています。

５．水捌けの工夫をした田圃では、発芽後2週間の間に水浸しにならないので根粒菌が根の周りの土中の空気中の窒素を利用して活性化しています。

６．敷石、石、コンクリート、建物、台所、湯沸器、車の排気ガスなどがある所では反遮熱、輻射熱、生活排熱があるので寒さによる凍結、霜柱を避けることが出来たため早春まで無事だったことを確認しています。

７．長年の耕作、秋の施肥で肥えている田圃、畑、庭では、冬場に土中での発酵があり、土が凍ることが少なく、枯死が少ない事を確認しています。

８．田圃よりも、やや湿潤な程度の畑、庭での育成で良い結果がでています。また日本レンゲの会では9月中旬から下旬を播種時期としていましたが、地球温暖化とは関係なく、9月上旬に変更することを確認しました。これは播種後数日で発芽しその後の太陽エネルギーなどの蓄積で葉が3枚から5枚以上で冬を越すからです。春の様々な虫に葉の一部が食われ生育障害が出たことも考慮しました。

９．数年前に東京都区内と多賀城の庭の一部にナメクジが大量に現れ全ての花が食べられましたが翌年以降は全く出ません。レンゲの最大の特徴は、初めて蒔いた場所の生育が良く二年目に生育が悪く他の草が増えますが、毎年続けていくとレンゲが徐々に定着します。二年目は土が肥えて土中の生き物が増え小鳥達が捕食に来て種を落とし、更に風で飛んできた様々な種が翌春レンゲと競争しながら草が背丈を伸ばすのです。したがって二年目の不作で諦めずに続けていくと田圃に漉き込んだレンゲが醗酵し水温を上げ、冷害の影響も受けなくなり土壌が肥えるわけです。またレンゲは茎を横に広げ沢山の花を咲かせ人々の心を和ませ最高の蜂蜜を提供してくますが、今年は太陽エネルギーの蓄積が少なく地球環境変化の影響をもろに受けた事を確認しています。

**【今後の対策】**

１．事務局の西村が注目しまとめた「レンゲに親近性のある植物」に関するご意見をホームページで募集して、長雨対策、寒い春対策を検討します。

２．富士山麓は、新幹線手前から見上げる場所での栽培ですが新幹線よりも山寄りに栽培する場所を増やす為の協力を検討します。

３．昨秋の種送付先には、今秋も同量送付します。

４．鹿児島県姶良市北山での種蒔に佐藤が参加します。

５．今年の各地の経過をまとめ、被害が出た地域の冠水対策等について役員と研究者に提示し、意見を求めることを計画中です。返信はメール、郵送で行います。意見集約後に、在京事務局でまとめた資料を日本養蜂協会、農水省記者クラブ、農山漁村文化協会、全国農業共済協会に持参し、役員、研究者に郵送し、一般会員には、種送付、来春会報発送に同封する予定です。また国の研究機関の資料室、図書室で会報を保存して頂いているので資料を送付します。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上